

## 要支援高齢者のソーシャルサポートに対する通所系サービス利用の効果

### —新規認定者を対象にした利用者と非利用者の比較—

○ 首都大学東京大学院 石附敬 (6958)

加藤利佳子 (首都大学東京大学院・6451)、浅井 正行 (明星大学・3535)、和気純子 (首都大学東京・1605)

キーワード：ソーシャルサポート 介護予防 要支援高齢者

#### 1. 研究目的

高齢期は肉体的、精神的、社会的に様々な喪失を経験するため、それらへの適応を助ける重要な資源としてソーシャルサポートが考えられる。これまで、主に一般高齢者のソーシャルサポートの向上を目的とした介入研究が国内外において行われているが、要支援高齢者を対象にしたものはほとんど見られない。要支援高齢者に対する介護予防は国の政策課題として掲げられ、効果的な介入方法が模索されているが、現状では身体機能の向上を目的としたものが中心である。本研究は、要支援高齢者のソーシャルサポートに対する効果的介入方法を検討していくために、まず、既存のサービスの中から対人交流の機会が多いと考えられる通所系サービスに焦点をあて、通所系サービスの利用が要支援高齢者のソーシャルサポートに与える効果の検証を行うことを目的とした。

#### 2. 研究方法

本研究は、「A市介護予防サービス（予防給付）効果評価調査」（実施主体 首都大学東京大学院人文科学研究科 和気研究室）の調査データを基にしている。

##### （1）対象者

東京都内のA市において、平成19年11月から平成20年3月に新規に要支援認定を受け、介護予防ケアマネジメント・サービスに基づいて、継続的に介護予防サービスを利用した利用者137名のうち、6カ月後の2回目調査に回答した111名を対象とした。

##### （2）調査方法

地域包括支援センターの職員が対象者宅を訪問し、初回認定直後及び6ヶ月後の2回、調査を実施した。調査項目は、基本属性、利用サービス、ADL、IADL、精神的健康度（WH05）、ソーシャルサポート等である。ソーシャルサポートは情緒的、手段的、情動的の3種類について、同居家族、別居家族、隣人・友人、専門職の4主体別に、受領と提供の両方向について質問し、「受領サポートの合計」「同居家族からの受領」「別居家族からの受領」「友人隣人からの受領」「専門職からの受領」「提供サポートの合計」「同居家族への提供」「別居家族への提供」「友人隣人への提供」として尺度化した（ $\alpha=0.78\sim0.96$ ）。種類別サポートの受領及び提供は、 $\alpha$ 係数が十分な値を示さなかったため、分析に含めなかった。

##### （3）分析方法

通所系サービスを利用した者を「利用者」（ $N=62$ ）とし、それ以外を「非利用者」（ $N=49$ ）とした。6ヶ月後と初回調査時のサポート量の差を求め、両群の平均を比較した。欠損値

には平均値を代入し、統計的検定にはt検定を用いた。同様の方法でADL, IADL, 精神的健康度についても比較を行った。

### 3. 倫理的配慮

地域包括支援センター職員が対象者に対し、研究の目的を書面及び口頭で説明し、同意が得られた者に対し調査を実施した。各対象者にはコードナンバーを割り当て、リストはセンターで管理した。調査票は無記名で、コードナンバーのみ記入し、匿名性を確保した。

### 4. 研究結果

#### (1) 初回調査時における両群の比較

基本属性について、居住形態に有意な差があり、非利用者群の方が一人暮らしの割合が高かった(20% vs. 43%)。心身状況では、精神的健康度が利用者群の方が有意に高かった。ソーシャルサポートは、「受領サポートの合計」「同居家族からの受領」「提供サポートの合計」「同居家族への提供」が有意もしくは有意に近い傾向で利用者群の方が高かった。

#### (2) 6ヶ月後の効果の比較(表1参照)

ADL, IADL, 精神的健康度への効果は、両群に有意な差は見られなかった。一方、ソーシャルサポートは、「受領サポートの合計」が利用者群の方が有意に向上しており( $p<0.05$ )、「同居家族からの受領」と「専門職からの受領」が有意に近い傾向で利用者群の方が向上していた。提供サポートは、全てにおいて両群に有意な差は見られなかった。尚、同様の方法で訪問系サービスの利用者とは非利用者の比較を行ったが、ADL, IADL, 精神的健康、ソーシャルサポートの全てにおいて利用群と非利用群に有意な差はなかった。

以上の結果により、通所系サービスの利用は要支援高齢者の全体的な受領サポート及び複数の提供主体別受領サポートの向上に役立つ可能性が示唆された。

表1:両群における6ヶ月後の効果の比較

アウトカム尺度	通所系サービス		有意確率
	利用者(N=62)	非利用者(N=49)	
ADL	M=-0.5 SD=3.8	M=-0.8 SD=4.3	N.S.
IADL	M= 1.0 SD=5.0	M= 0.8 SD=4.6	N.S.
精神的健康	M= 0.6 SD=4.7	M= 0.4 SD=4.7	N.S.
受領サポート合計	M= 0.6 SD=5.5	M=-1.6 SD=5.6	0.043*
同居家族	M= 0.7 SD=2.6	M=-0.2 SD=2.4	0.066(*)
別居家族	M= 0.5 SD=2.8	M=-0.4 SD=3.2	N.S.
友人・隣人	M= 0.0 SD=2.5	M=-0.2 SD=2.4	N.S.
専門職 <sup>a)</sup>	M= 0.3 SD=2.4	M=-0.6 SD=2.4	0.052(*)
提供サポート合計	M=-0.1 SD=6.4	M=-0.3 SD=5.7	N.S.
同居家族	M= 0.0 SD=2.9	M= 0.1 SD=2.8	N.S.
別居家族	M=-0.2 SD=2.8	M=-0.2 SD=3.2	N.S.
友人・隣人	M=-0.2 SD=2.9	M=-0.2 SD=2.5	N.S.

(\*)  $p<0.1$  \* $p<0.05$  N.S. 有意差なし M 平均値 SD 標準偏差

※各アウトカムの得点は6ヶ月後の得点とベースライン得点の差を計算した a) 専門職は受領サポートのみ